

産量豊富に種ナマコ



④北海道石狩湾で建設が進むナマコ種苗生産施設 ⑤ナマコエキスを配合したせっけん(手前)とサプリメント

石狩湾に生産拠点 30ミリ以上、1億個体目指す

ナマコの大規模種苗生産施設が今春、石狩湾に竣工する。青森市の株式会社(川越真実社長)が経営主体となり、札幌市のISF(澤井昌子社長)が西日本で実績を持つ「世界初の薬剤を一切使わない技術」という種苗生産育成方法を導入し、30ミリ以上の稚ナマコの量産・販売を目指す。北海道産ナマコの資源維持・増大に寄与するとともに、ナマコの口腔保健機能食品の実用化・普及に向け、原料の安定調達につなげていく。

あつらは高齢者向け住宅、再生エネルギー発電などの事業を展開。オーナーの川越幸夫氏はナマコ養殖事業への参入について「サポニンなどの含有成分が口の中を健康にする」といっており、当社も老人ホーム経営で関連があり、口の中がカビ(カンジダ)で荒れて食

あつら・ISF

が細くなるなどの問題を解決できればというのが端緒」と説明する。施設は4月と5月に各1棟が完成。漁協など種苗の購入希望先から親ナマコを調達し、7月から産卵を開始。2棟木造平屋建ての約370平方メートル(約270平方尺)で1千万個体、将来的には15

棟に拡充し、1億個体の生産を目標に据える。「海をきれいにするナマコを増やしていくことで水産資源の回復・保全に役立つことができれば」と漁業振興の観点も示す。

「世界初」の手法 ISFによると、種苗生産・育成技術は、傷を付けずにメスを判別、集約することで誘発剤を使用せずに温度変化刺激法

棟に拡充し、1億個体の生産を目標に据える。「海をきれいにするナマコを増やしていくことで水産資源の回復・保全に役立つことができれば」と漁業振興の観点も示す。



川越幸夫氏



澤井昌子社長



矢野明部長



渋谷長生教授



機能性食品開発 新たな需要創出 一方、サポニンやコラーゲンなど抗菌・保湿成分を活用したナマコの口腔保健機能食品は、岩手生物工学研究センターや岩手医科大などのグループと、ナマコエキス抽出技術を持つISFが共同開発。製造技術は国際特許の取得を目指す(通知番号PCT/JP2018/30588)。

産卵出身の長友隆典弁護士(札幌市)が特許出願をサポートしている。既に臨床試験で口腔内のカンジダが減少する結果を得ており、岩手県の企業2社が来年中の商品化を目指し準備を進めている。岩手生物工学研究センターの矢野明・生物資源研究部部長は「製造開発と同時に進行で原料のナマコが安定的に大量に調達できる条件の成立が必要」とし、種苗生産施設の稼働でナマコ

同フロックはコンクリート製で海底でも内側に空気を保持する構造。静穏で餌料となる付着珪藻が豊富なナマコ育成に好適環境とされる漁港水面を利用した養殖技術の確立を目的に開発された。空気がナマコの通り道をふさぎ、漁港開口部の海底に並べて沈めることで港外に逃がさない機能を果たす。

「全国6地域から種苗生産施設を設置依頼も来ており、順次着手する予定」という。

「全国6地域から種苗生産施設を設置依頼も来ており、順次着手する予定」という。

「全国6地域から種苗生産施設を設置依頼も来ており、順次着手する予定」という。

ISFでも「北海道神

「全国6地域から種苗生産施設を設置依頼も来ており、順次着手する予定」という。

「全国6地域から種苗生産施設を設置依頼も来ており、順次着手する予定」という。

「全国6地域から種苗生産施設を設置依頼も来ており、順次着手する予定」という。

「全国6地域から種苗生産施設を設置依頼も来ており、順次着手する予定」という。

「全国6地域から種苗生産施設を設置依頼も来ており、順次着手する予定」という。

十勝・釧路西部海域の毛ガニ水揚実績

漁協	数量・トン	金額・百万円	単価・円/キログラム
十勝			
広尾	54.6(82%)	245.0(80%)	4,488(97%)
大樹	14.3(82%)	62.0(79%)	4,366(98%)
大津	32.1(81%)	134.0(79%)	4,165(97%)
合計	101.0(82%)	441.0(80%)	4,368(97%)
釧路西部			
白糠	36.6(86%)	282.0(96%)	7,691(111%)
釧路市	15.2(61%)	84.0(64%)	5,496(104%)
釧路市東部	3.0(48%)	18.5(53%)	6,168(110%)
合計	54.8(74%)	384.5(83%)	6,999(112%)

1月下旬で漁期が終了した十勝海域(広尾・大樹・大津の3漁協)と釧路西部海域(白糠・釧路市・釧路市東部の3漁協)の毛ガニ漁は、十勝が3

今年度も39%。平均単価は前年比62%減の60円と、07年以来10年ぶりの100円割れに急減。18年は許容量が70ト減の10トとなり、漁獲量も55トと低迷。今年の許容量は4ト減の106ト。

2年連続の許容量減 組成、消化度に明暗

漁協とも許容量を達成。釧路西部は白糠がほぼ消化した一方、釧路市内の2単協は半分にとどまった。両海域とも2年連続の減枠となり、単価も伸び悩んで、金額は前年割れとなった。

水中ドローン導入 海藻の調査に活躍

建設コンサルタントなどの株式会社アイ・ティ・エス(札幌市、下川俊克社長、電話011-743-1707)は産業用の水中ドローン「CCROV」を導入。垂直に沈み、前後左右に水平移動が可能なのが特長。旋回もできる。橋桁や橋台における水中の点検調査に使える

今年度も39%。平均単価は前年比62%減の60円と、07年以来10年ぶりの100円割れに急減。18年は許容量が70ト減の10トとなり、漁獲量も55トと低迷。今年の許容量は4ト減の106ト。資源状況については、釧路水試は「新規加入は悪くはない。成長して出てくるはずの大・中サイズが2、3年前に一気にいなくなった」とし「暖水塊が接岸した影響が大きかったのではないかと考えている」と説明。「年変動はあるが、十勝では小が多い。過去の標識放流調査でも十勝側の小サイズが成長しながら釧路側に移動していく傾向が見られる」と、今後の回復に期待し経過を注視する。

今年度も39%。平均単価は前年比62%減の60円と、07年以来10年ぶりの100円割れに急減。18年は許容量が70ト減の10トとなり、漁獲量も55トと低迷。今年の許容量は4ト減の106ト。資源状況については、釧路水試は「新規加入は悪くはない。成長して出てくるはずの大・中サイズが2、3年前に一気にいなくなった」とし「暖水塊が接岸した影響が大きかったのではないかと考えている」と説明。「年変動はあるが、十勝では小が多い。過去の標識放流調査でも十勝側の小サイズが成長しながら釧路側に移動していく傾向が見られる」と、今後の回復に期待し経過を注視する。

今年度も39%。平均単価は前年比62%減の60円と、07年以来10年ぶりの100円割れに急減。18年は許容量が70ト減の10トとなり、漁獲量も55トと低迷。今年の許容量は4ト減の106ト。資源状況については、釧路水試は「新規加入は悪くはない。成長して出てくるはずの大・中サイズが2、3年前に一気にいなくなった」とし「暖水塊が接岸した影響が大きかったのではないかと考えている」と説明。「年変動はあるが、十勝では小が多い。過去の標識放流調査でも十勝側の小サイズが成長しながら釧路側に移動していく傾向が見られる」と、今後の回復に期待し経過を注視する。

今年度も39%。平均単価は前年比62%減の60円と、07年以来10年ぶりの100円割れに急減。18年は許容量が70ト減の10トとなり、漁獲量も55トと低迷。今年の許容量は4ト減の106ト。資源状況については、釧路水試は「新規加入は悪くはない。成長して出てくるはずの大・中サイズが2、3年前に一気にいなくなった」とし「暖水塊が接岸した影響が大きかったのではないかと考えている」と説明。「年変動はあるが、十勝では小が多い。過去の標識放流調査でも十勝側の小サイズが成長しながら釧路側に移動していく傾向が見られる」と、今後の回復に期待し経過を注視する。

今年度も39%。平均単価は前年比62%減の60円と、07年以来10年ぶりの100円割れに急減。18年は許容量が70ト減の10トとなり、漁獲量も55トと低迷。今年の許容量は4ト減の106ト。資源状況については、釧路水試は「新規加入は悪くはない。成長して出てくるはずの大・中サイズが2、3年前に一気にいなくなった」とし「暖水塊が接岸した影響が大きかったのではないかと考えている」と説明。「年変動はあるが、十勝では小が多い。過去の標識放流調査でも十勝側の小サイズが成長しながら釧路側に移動していく傾向が見られる」と、今後の回復に期待し経過を注視する。



建設コンサルタントなどの株式会社アイ・ティ・エス(札幌市、下川俊克社長、電話011-743-1707)は産業用の水中ドローン「CCROV」を導入。垂直に沈み、前後左右に水平移動が可能なのが特長。旋回もできる。橋桁や橋台における水中の点検調査に使える

札幌市のホテル、ロイトン札幌で表彰式が行われた。011-6222-5556